

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成30(2018)年11月1日木曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



カトリックの信徒団体である聖エジディオ共同体が主催する「世界宗教者平和の祈りの集い」が10月14日から16日まで、イタリア・ボローニャで開催された。
天台宗からは杉谷義純宗機顧問会会長・妙法院門跡門主を名誉団長とする十一名の使節団を派遣し、諸宗教指導者らと世界平和への祈りを捧げた。

宗教指導者らが平和の架け橋に

第32回 世界宗教者平和の祈りの集い開催 イタリア・ボローニャ



15日から開催された分科会で「武器のない世界の創造」と題し杉谷顧問が発表した。「宗教者が率先して諸宗教間の信頼関係を構築することが必要」との提言に、会場からは拍手で賛同が示された。(3面に内容詳細を掲載)

この集いは1986年にローマ教皇ヨハネ・パウロ二世聖下の呼びかけで、アッシジで開催されて以来、毎年ヨーロッパ各地で開かれており今年で32回を数える。
今回のテーマは「平和の架け橋」とし、14日の開会式にはイタリア元首相で欧州委員会委員長を務めたロマーノ・プロディー氏をはじめ、ボローニャのマッテオ・スズピ大司教、ボローニャ市長ら要人が出席し、期待感が示された。また聖エジディオ共同体創設者の一人であるアンドレア・リッカルディ教授からは「橋をかけることで対話が可能となり、平和への道を築ける」と今大会の趣旨が述べられた。
15日からは市内各所で分科会があり、そのうちのひとつで杉谷顧問が「武器のない世界の創造」と題し発言した。

その中で、「祈りにもどづく対話を通して育まれる信頼関係こそが武器のない世界を実現させる近道である」と提言。軍隊や兵器が全く役に立たないという意味の兵^{へい}無^む用^{よう}を紹介し「宗教が理想論を述べているのではなく、人類の未来における現実の姿を示している。この祈りの集いが真の平和実現に向けて実り多きものとなることを期待する」と語ると、会場は拍手で包まれた。
最終日の16日には、仏教による「世界平和祈願法要」が営まれ、甘井亮淳財務部長、中村彰恵宗議会議長、今出川行戒延暦寺副執行らの出陣で杉谷顧問を大導師に厳修。祈願文が奉読され、日本から参加した他宗派の僧侶やボローニャ市民と共に世界平和実現を祈願した。
その後、閉会式会場のマッジョレ広場まで諸宗教の代表者らが手を取り合って行進。子ども達との平和の交歓などの各セレモニーがあり、最後に平和宣言文が採択された。(写真) (次号詳報)

極微

テニスの大坂なおみ選手が全米オープンで優勝したニュースは未だ耳新しい。お父さんはハイチ人だが、お母さんが日本人であり、日本国籍もあるから日本中が沸き立った。ただ、風貌がいわゆるモンゴロイドでない。それで日本国内では、とまどいもあったようで、ウェブ上では、「日本人らしくない」という話題もちらほらあった▼「日本人」といえるのは、一般的には日本国籍を持つ者であり、人種による区別などはない。時を遡れば、人類学的にはユーラシア大陸から渡ってきた縄文人や弥生人など旧・新のモンゴロイドが「日本人」といえるだろうが、「まったく純粋な日本人」かどうかは分からない▼移民の国、米国や豪州でも、ネイティブ・アメリカンやアボリジニといった先住民だけが「純粋な」米国人やオーストラリア人と言いつつ切ってしまうのも狭い考え方の気がする。ヨーロッパの国々でもアフリカや中東出身の人たちがそれぞれ「国民」となっている現状がある。一国の「純粋民族」論議は成り立たなくなってきた▼少子高齢化で、日本も様々な国から人々を受け入れなければならなくなるといふ。となると、日本も様々な人種が増え、単一民族国家などといっておられなくなるのでは。インタビュで「アイデンティティは？」と問われた大坂選手は「私は私」と答えていた。